

「早町小学校の三味線に親しむ活動の取組」

1 学校名

喜界町立早町小学校

2 学年・人数

平成26年度4年生（計16人）

平成27年度4年生（計 8人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時：【平成27年度】10月から12月に毎月2単位時間実施

練習の場所：早町小学校 1月に毎週2単位時間実施 ※26年度分記載省略

(2) 発表の日時：平成28年2月14日（日）町シマ唄・シマゆみた大会 ※26年度分記載省略

発表の場所：喜界町役場

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

三味線に親しむ活動

(2) 由来

本校は、平成24年4月に、4校の小学校が再編され、早町小学校として開校した。平成25年度から、「確かめよう、ふるさとのよさ！ 楽しもう、ふるさとの伝統・文化！ 受け継ごう、ふるさとの心！」をスローガンに、ふるさとのよさを実感できるような教育活動の計画・実施に努めている。そのような中、子どもに体験してほしい伝統芸能に、三味線があった。本校には、幾つかの旧小学校から三味線が引き継がれていたことから、平成26年度から、4年生の総合的な学習の時間に、三味線に触れたり、三味線を演奏したりする学習を設定することにした。そのことにより、ふるさとの伝統・文化を楽しみ、そのよさを実感できるようにしている。そのことが、ひいては、ふるさとに誇りをもつことにつながると考え、実施している。

(3) 構成等

平成26年度は、子どもたちに親しみのある「チューリップ」、「きらきら星」、「かえるの合唱」、「うさぎとかめ」の4曲を演奏

平成27年度は、童神^{わらびがみ}、奄美チンダラ節を演奏

5 保存会や地域との連携の具体

喜界島島内外で活躍する三味線奏者「西商店（芸名）」の西徹彰さん（本校区内在住）に、この二年間は指導を仰いでいる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

喜界島における三味線は、楽譜がなく、曲を聴いて覚え、三味線の演奏法は真似て覚えるようになるという伝承方法をとっている。

そのことから、平成26年度は、子どもたちに親しみのある童謡の4曲を使った。併せて、この4曲について、シマゆみた（方言）に訳し、子どもたちは、シマ口で歌った。その際に、子どもたちは、旧4小学校区の高齢者を訪問し、それぞれの曲を訳してもらい、互いに教え合って練習した。

平成27年度は、二つのシマ唄に挑戦した。今回は、初めてのシマ唄への挑戦ということで、学級担任が考え出した三味線の三線譜を起こし、それを基に、子どもたちは練習した。子どもたちは、昼休みなどにも率先して練習し、二つの曲をマスターした。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



〈平成26年度の町シマ唄・シマゆみた大会の発表の様子〉



〈平成27年度の練習風景〉

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

○ 児童の感想

最初は、難しいと思っていたけれど、頑張って練習した。上達すると、面白くなり、三味線を家に持って帰る許可をもらい、練習した。

○ 教員の感想

子どもたちの三味線に対する関心の高さには、驚いた。発表が終わった後、三味線教室に行きたいという子どももいた。